

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 みつばち			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 22日 ~ 令和8年 1月 9日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 22日 ~ 令和8年 12月 26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各関係機関（相談支援事業所・保育所・姫路市・子育て支援室・他事業所・小学校など）との連携を、細かく行っています。	担当者会議は、必ず参加し、現状や課題を共有しながら、支援の方向性や足並みを合わせて、支援を行っている。 こどもたちの送迎の際、先生方と直接話したり、系列保育所では、定期的に面談をする機会を設けている。連絡ノートを通して情報共有を行っている。	受け身にならずに、定期的に、積極的に連絡を取り、情報共有を行っている。
2	同じ建物の2階にある「放課後等デイサービスはちのじ」との交流。	季節の行事と一緒に楽しみながら、異年齢交流を行っている。 玩具を貸してもらったり、使い方を教えてもらったりと、楽しく交流が行えている。みつばちを退所し、はちのじで引き続き支援を受けられる場合は、慣れた環境で継続した支援を受けて頂くことができている。	ご利用時間が合わない為、長期休暇をメインに実施しているが、交流の機会を多く持てるよう企画していく。
3	日々の療育だけでなく、クッキングや所外活動を行っている。	将来、自立にむけて、買い物や調理に使う器具に触れ、こどもの発達段階に合わせて、こどもたち主体で調理を行い、成功体験を積んでいく。出来た喜び、達成感、自信を付けている。 所外活動は、公共交通機関を使った移動や、買い物、コンサート鑑賞など、社会のルールやマナーを知り、実体験を通して学んでいる。	偏食、感覚過敏のある利用児に対しては、見る・におう・触れるを経験しながら、意欲的に参加できるようにする。 所外行事は、スタッフが全員出勤していないと実施できていない。こどもの行動を予測しながら、安全第一で行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物が大きな道路に面している。	飛び出すと大事故に陥る危険がある。特に送迎車からの乗降中等のリスクが高い。	療育室からは飛び出し防止ゲートを設置。送迎者からの乗降中は道路側にスタッフが立ち、飛び出せないよう配慮する。
2	スタッフの人数が少ない。	人員配置基準は満たしているが、外出・個別支援などを考えるとスタッフの増員が必要だと感じている。 研修の参加ができない。	早急な人員確保が必要と感じていますので、対応していく。
3	社会全体に、“児童発達支援”とは何か？が知られていない。	所外活動において、発達特性に対する理解や、障がいに対する偏見を感じる時がある。インクルーシブな社会を目指していてもまだ浸透しているとは言えない。こどもたちやご家族が、地域で安心して楽しく生活できるよう、実体験の経験を重ね、自分たちの力をつけて、周囲の理解に繋がるようにしている。	地域交流ができる場所を限定してしまっているが（公民館や系列の保育所など）たくさんの経験を通して、こどもたち、保護者が自信を持てるようにしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援 みつばち

公表日 令和8年 1月 15日

利用児童数 令和8年 1月 9日 回収数 16

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%				・自分で出来る事が増えました。 ・ひとりひとりの特性に合わせて支援が受けられている。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%				・こどものことを、よく分かってくれていると感じています。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%				・こどもにとって、今必要な支援が、細かく具体的に設定されていると思います。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%				・学習も様々ありとても良い。細かい作業が上手になりました。 ・季節のイベントやクッキングもある。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	100%					公民館の行事に参加させて頂き、地域のこどもたち、お年寄りの方と交流している。全員が参加できるよう調整しているが、利用日が重なっていない方は参加できていない現状がある。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	100%					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	100%				・写真や動画を送ってくれるので、様子が分かって有難いです。 ・連絡ノートで活動の内容を知る事が出来る。 家庭の様子も伝えていきます。 ・とても心強いです。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%				・すべての職員の方が、共感的に支援をされていると感じている。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。					・保護者の交流の機会が、もう少し増えたらいいと思います。	ペアレントデーを実施し、親子で来所して活動を見て頂いたり、保護者や職員で座談会を開催して、情報共有を行ったりしている。きょうだい同士の交流の機会は、必要に応じて支援を行っていく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%				・相談をした際には、その日のうちに電話対応してくださいました。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	100%					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100%					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。					・分かりやすい訓練のおかげで、災害に対する知識がついていると感じます。	避難訓練の日に、ご利用されていないお子様に対しては、紙面にて学ぶ機会を設けている。月に一度、地震・水害・火事・不審者を想定し訓練を行っている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%				・ケガはしていないが、ケガに繋がるトラブルがあれば、電話で対応して下さった。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%				・居場所になっていると感じる。 ・先生やお友達の名前を覚えてくれて楽しそうです。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。					・とても楽しみにしている。 ・今日が通う日なにか、カレンダーでチェックし、嬉しそうにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				・とても満足しています。今後も通いたいです。 ・大変満足している。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
児童発達支援 みつばち		令和8年1月15日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		十分な活動スペースを確保できている。園庭や、目の前の総合公園でも活動を行っている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	28%	72%	室内の段差は、スロープをつけ、滑り止めをしている。高い段差は、補助段差を置いている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		気持ちが落ち着かない時には、必要に応じてクールダウンができるよう、個室を設けている。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		日々の療育後にミーティングを行っており、月に一度はスタッフ全員で、PDCAに基づき現状把握を行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	72%	28%	スタッフ間で意見を出し合うことが多い。相談支援事業所や子育て支援室など、各関係機関と連携をとり、業務改善に繋げている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		希望者を募り、なるべく参加できるように、職員配置を調整している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	72%	28%	標準化されたアセスメントツールはしろうしていないが、見学時・ご契約時にアセスメントを行っている。日々の支援は個別評価ノートを作成して記録を残している。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		各関係機関と、積極的に連携をとり、支援を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		担当者会議に参加することはもちろんの事、送迎時に、相互の情報共有を行ったり、連絡ノートを作成して、理解を深めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		指導参考資料や、サポートブックを提出したり、学校主催の面談にも参加させて頂き、引継ぎや情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				機会があれば受けたい。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%		地域の公民館行事に参加させて頂き、こどもたちやお年寄りの方と交流をしている。放課後等デイサービスはちのじのご利用児と一緒に、活動を行い、異年齢交流を行っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		必要に応じて個別面談を行っている。ペアレントデーを実施し、ご家族が参加した活動や情報共有・意見交換を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	56%	44%		きょうだい同士で交流する機会は、設けていないが、必要に応じて実施を検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		保護者の同意を得て、Instagramでも発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	44%	56%	地域の方を招待する行事は行っていないが、公園のクリーン作戦に参加し、一緒に清掃活動を行っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		毎月、避難訓練を行っている。視覚支援を用いて分かりやすく安全に避難できるよう訓練をしている。（地震・火災・水害・不審者）	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		ご利用開始前に、確認をし、個別にファイリングして共有をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		保護者の指示をもとに対応を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%			